

2018年度淑徳大学卒業時調査報告

淑徳大学 高等教育研究開発センター

2018年度卒業時調査の目的

2018年度末の淑徳大学卒業生を対象に行い、「**本学の卒業認定・学位授与の方針**」や「**教育課程編成・実施の方針**」に基づいた教育や学修成果について評価するとともに、今後の教育改善に資する事を目的として、各キャンパスの卒業式当日に実施。

卒業時調査の回収率

学部名	学科名	対象者	回答枚数	回収率
総合福祉学部	社会福祉学科	179	172	96.1%
	教育福祉学科	162	154	95.1%
	実践心理学科	75	73	97.3%
コミュニティ政策学部	コミュニティ政策学科	65	59	90.8%
看護栄養学部	看護学科	91	91	100.0%
	栄養学科	68	63	92.6%
経営学部	経営学科	90	83	92.2%
	観光経営学科	73	69	94.5%
教育学部	こども教育学科	117	109	93.2%
人文学部	表現学科	68	66	97.1%
	歴史学科	38	37	97.4%
不明			2	
大学全体		1026	978	95.3%

※学部並び順は同一キャンパスを優先している。

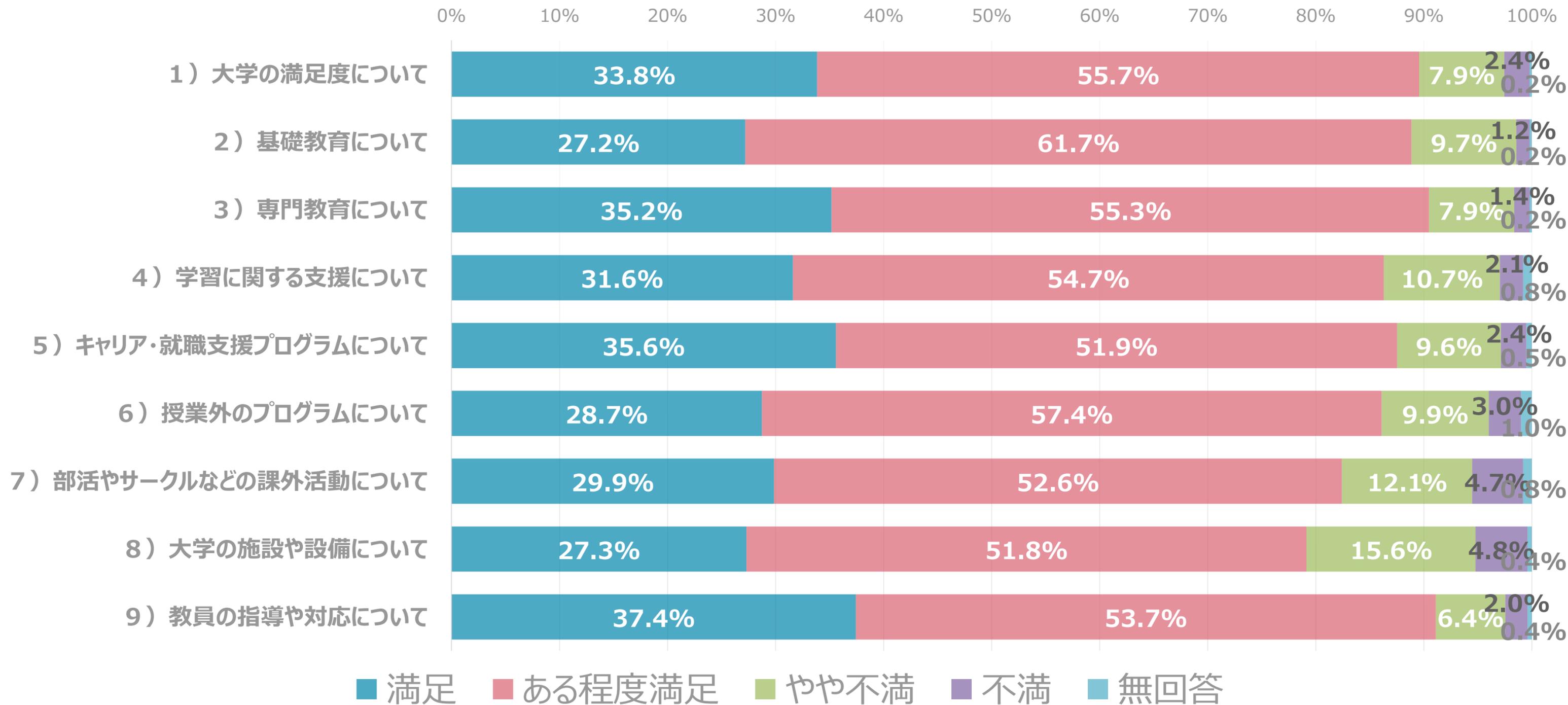
※回収枚数は979枚だが、学籍番号、所属、回答全て回答していないのものが1枚あった為に除外している。

また看護栄養学部にチェックがついているが、学籍番号不明及び看護学科の人数が多い為、不明としている。

大学の満足度について（設問）

	大学の満足度について	満足	ある程度満足	やや不満	全くそう 思わない
1	大学の満足度について	4	3	2	1
2	基礎教育について	4	3	2	1
3	専門教育について	4	3	2	1
4	学習に関する支援について	4	3	2	1
5	キャリア・就職支援プログラムについて	4	3	2	1
6	授業外のプログラムについて	4	3	2	1
7	部活やサークルなどの課外活動について	4	3	2	1
8	大学の施設や設備について	4	3	2	1
9	教員の指導や対応について	4	3	2	1

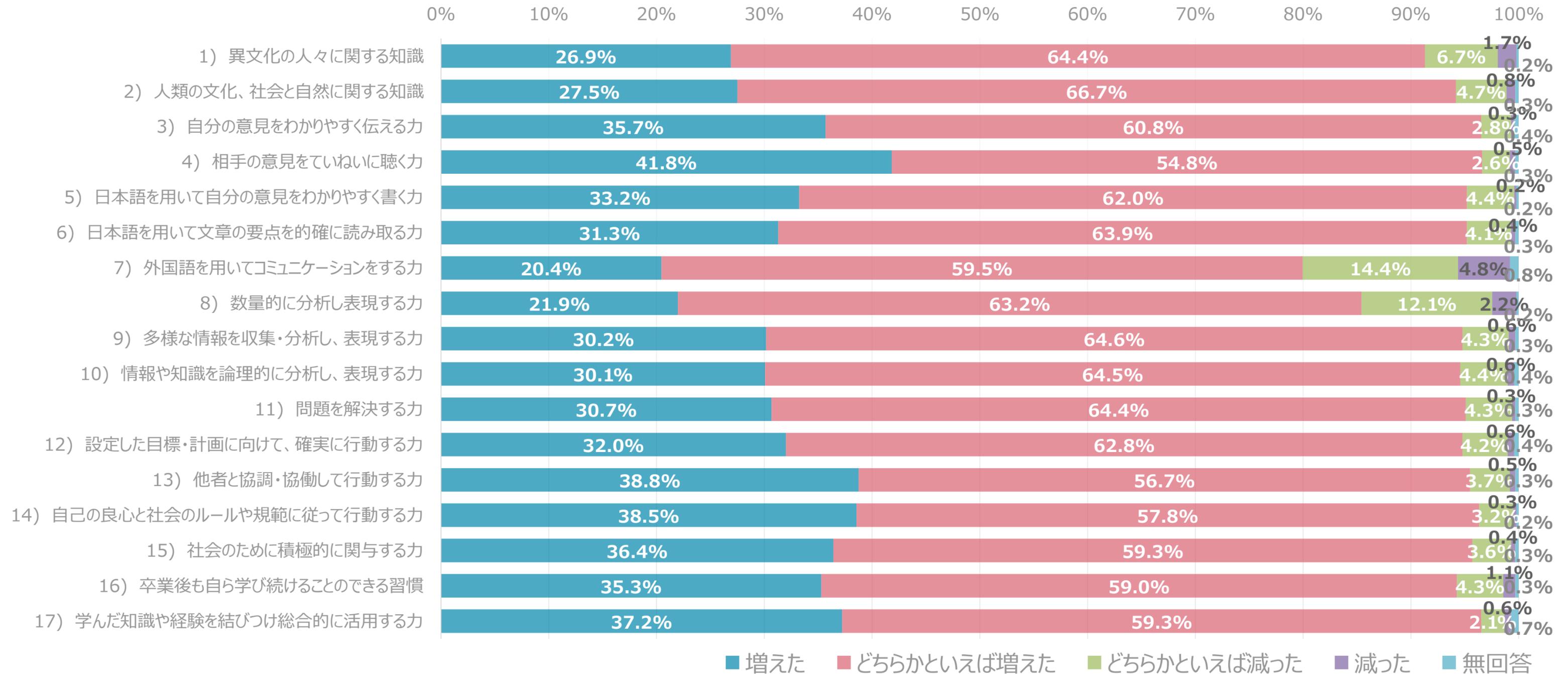
大学の満足度について（大学全体）



入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化したか(設問)

	入学した時点と比べた能力や知識	増えた	どちらかといえば増えた	どちらかといえば減った	減った
1	異文化の人々に関する知識	4	3	2	1
2	人類の文化、社会と自然に関する知識(いわゆる一般的な教養)	4	3	2	1
3	自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1
4	相手の意見をていねいに聴く力	4	3	2	1
5	日本語を用いて自分の意見をわかりやすく書く力	4	3	2	1
6	日本語を用いて文章の要点を的確に読み取る力	4	3	2	1
7	外国語を用いてコミュニケーションをする力 (読む、書く、聞く、話す)	4	3	2	1
8	数量的に分析し表現する力	4	3	2	1
9	多様な情報を収集・分析し、表現する力	4	3	2	1
10	情報や知識を論理的に分析し、表現する力	4	3	2	1
11	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決する力	4	3	2	1
12	設定した目標・計画に向けて、確実に行動する力	4	3	2	1
13	他者と協調・協働して行動する力	4	3	2	1
14	自己の良心と社会のルールや規範に従って行動する力	4	3	2	1
15	社会の一員としての意識を持ち、社会のために積極的に関与する力	4	3	2	1
16	卒業後も自ら学び続けることのできる習慣	4	3	2	1
17	これまでに学んだ知識や経験を結びつけ総合的に活用する力	4	3	2	1

入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化したか（大学全体）



2018年度卒業時調査結果の分析

○大学の満足度について

- ・施設や設備の満足度を除き、総じて「満足・ある程度満足」の割合が9割を超え、卒業時における満足度は高い。特に教員の指導や対応については満足度が高い傾向にある。
- ・施設や設備の満足度については、キャンパスや学部・学科により、満足の度合いが異なる結果となっている。

○入学時点と比較した能力や知識について

- ・英語や数量的な力以外は入学時と比較して9割以上は伸びたと感じている。
- また能力や知識に関する設問は11月～12月に行った学修行動等調査と同じ内容で実施した。この調査の報告書の内容と見比べると次の事が見受けられる。
- ・一部の学部以外は「満足 + ある程度満足」の割合が増えている。
 - ・英語や数量的に分析し表現する力も上がっていることから、今後詳細な分析をする必要がある。